



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLY BULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

ROTARY 2000:
ACT WITH
CONSISTENCY
CREDIBILITY
CONTINUITY



ロータリー2000:

活動は-堅実、
信望、持続

1999~2000年度 国際ロータリーのテーマ

ロータリー雑誌月間

第636回 平成12年 4月 5日(水)

[本日のプログラム]

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 点 | 鐘 |
| 2. 国 歌 | 斉 唱 |
| 3. ロータリーソング | 「我等の生業」 |
| 4. 「四つのテスト」 | 唱和 |
| 5. 食 | 事 |
| 6. 会 長 の 時 間 | |
| 7. 幹 事 報 告 | |
| 8. 委 員 会 報 告 | |
| 9. 4 月 セ レ モ ニ ー | |
| 10. 点 | 鐘 |

次 回 予 告

★ 4月12日(水)
夜間例会
会員卓話

岩切正司君

★ 4月19日(水)
会員卓話

後藤明夫君

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週金曜日(12:30~13:30)	会 長	福井 輝文
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	梶田與之助
事務局	宮崎県佐土原大字下町3887-17 ☎880-0212	幹 事	恒吉 正志
	TEL FAX 0985-73-7170	会 計	林 厚雄
		会報委員	池田 仁志

第635回例会記録
(2000. 3. 29)

☆会長の時間

会長 福井 輝文 君

皆様 今晩は
第635回の例会で、観桜会をこのあと開催致します。

4月より、容器包装リサイクル法が完全施行になります。

施行後3年経過し、多くの課題が明らかになる一方で、循環型社会への可能性もはっきり見えてきている様です。

厚生省リサイクル推進室長の、泉 真氏は、新しい制度なので課題がない訳ではないが、国としてトライ&エラーを見極めながら、課題がある部分は見直して行く...としています。

我々もしっかり収集分別をして行かなくてはなりません。

天気が良ければ、「宝塔山」でまだ蕾の桜を愛でながらの筈でしたが、あまりにも風が強い日になりましたので、ここ「かぼちゃ」にて観桜会の行事を催します。

皆さん!!何とぞ、心ゆくまで、酒を酌み交わし、親睦をはかれることを、お願いいたします。

☆幹事報告

幹事代行 吉田 康一郎 君

1. 例会変更および休会通知

①4月18日(火)は「夜間例会懇親会の為、晴 18:45~

新 龍サウナにに変更
宮崎 R C

②4月20日(木)は「くすの木贈呈式」の為、晴 18:30~

新 ホテル神楽にに変更
宮崎中央 R C

③4月26日(水)は「台湾R C歓迎会」の為、晴 18:00~

新 ホテルフェニクスにに変更
宮崎北 R C

毎年この観桜会の時期は、寒くて風なども強いので、少し時期を遅らせたかどうか、とのご意見もありましたが、この後の行事等も控えている関係で、プログラム通り、本日に実行することにしました。

案の定、風が強く、寒い夜になってしまいましたので、風邪気味の方もおられますので、先程会長の話にもありました様に、「かぼちゃ」にて観桜会を行います。どうぞ、時間の許す限り、ごゆっくり、料理、お酒、を楽しんで下さい。

☆出席報告

委員長代理 田村 勝二 君

会 員 数	26名
例 会 出 席 者	20名
出 席 率	77%
メークアップ者数	3名
修 正 出 席 率	88%
欠 席 者 名	詰 贈 誌

☆委員会報告

職業奉仕委員長 伊東忠寛君

◎宮崎RC 第37回職業奉仕賞贈呈式について
福井会長の代理で職業奉仕委員長として出席いたしましたので、概要を報告します。

日時 平成12年3月7日(火) 12:30~13:30
場所 宮崎観光ホテル 東間3階(宮崎RC例会場)
受賞者 元・フェニックス国際観光自然動物園副園長
竹下 完氏(66才)

* 23年間に亘りフェニックス国際観光自然動物園の副園長として勤務され、H6年に退職。

現職当時から現在に至るまで特に「日向灘沿岸…宮崎市・佐土原町・新富町・高鍋町にいたる23キロメートルの海岸一帯」の「あか海亀」の天然記念物指定に貢献され、さらに現在も動物愛護協会に所属され自然環境保護に努められている。

* この様な「職業を通じて自然環境の保護活動に貢献している…」ことが、宮崎RCの今年度職業奉仕賞推薦のキャッチフレーズであった。

佐土原RCにおいても行政をはじめ各種団体などに働きかけを積極的に行い、佐土原の地域性にマッチした「職業奉仕賞」を制定したいものです。

竹下 完(ヒロシ)氏の資料がありますので、週報で紹介させていただきます。

☆『素顔の動物』

竹下 完 著 幼婦

子ガメ救う善意の輪

動物愛護週間に減びゆく野生動物、ペットを可愛がろうと、色々な行事が行われる。この呼びかけもなにも、週間中のみのような気がしてならない。

ところが、ある夏、動物愛護週間とは別にすばらしいことがあった。

宮崎市はアカウミガメの産卵地として有名どころである。アカウミガメの産卵地は、全国各地にあるが、宮崎はその広さと集団上陸数の多さでは最も有名だ。高鍋町から青島まで一市三町にまたがる二十二・九キロが現在県の天然記念物に指定されている。そのうち、宮崎市の十六キロを動物園の職員や宮崎大学の先生、学生たちで作っている宮崎野性動物研究会の会員が、観察や保護に当たっている。

その年も四百三十八頭が上陸し、そのうち八十%ほどが産卵をした。あとは可愛い子ガメの孵化を待つばかりだった。

☆自然の中での教育

竹下 完著 幼謙

先日、ある人から「君はどうして動物園を職業にえらんだのか」と尋ねられた。はたと即答に困り、「子供の頃から動物が好きだったから」と答えたものの、はたして、自分が何時頃から、この道に進もうと考えたのだらうと自問自答をしていた。親が進めたわけではないし、そこにはなにか、私をこの道に進める潜在的な動機があったのではないかと思いつめぐらしていた。

小学生の頃、私は大阪で育った。とはいっても今の箕面市、当時は郊外の片田舎だった。私立の小さな小学校に通っていたが、ここで一週間に二時間、校長先生が私たちを受け持ってくださいる授業があった。それを「自然の時間」と呼んでいた。

今と違って、それこそ自然そのままの時代の話である。校長先生は、私たちを教室から連れ出し、歩いて校門を出ると野外学習に出かけた。そこは、野原だったり小川だったり。森だったりした。

草や木の茂る森の中を、小鳥はさえずり、花が咲き蝶が舞う、そんな中を歩き回り自然と取り組む学習だった。教室の勉強と違って、私たちはゴムまりのようにはしゃいで遊んだ。でも校長先生と私たちは何でもいから、一つだけ覚えて帰ることという約束があった。

これが校長先生の自然の時間だった。

私たちは、その約束を早く片付けようと、その辺に生えている草花を摘み取ると「先生これ何」と尋ねた。先生は、それを一つ一つ丁寧に教えてくれた。それに「これは食べられるぞ、この草の根で昔の人たちは布を染めたのだ。あの声はヤマガラだと色々と教えて下さった。私たちは、夢中で遊びながらも「これなに」「なぜ」と校長先生に次々と疑問を投げかけた。校長先生は、いつもにこにこしながら、丁寧に教えて下さった。そのうち、どこにアケビがあるのか、カブトムシのいる木はどこか、ハゼのいるのはどの辺と私だけの秘密地図が、頭の中に出来上がっていった。まるで大自然が自分のようだった。

私が現在、自然を相手にする職業を選ぶようになった動機は、どうやらここにあったのだと今、校長先生のすばらしい教育に感謝している。

動物園も遠足のシーズンになると、毎日沢山の小学生がやって来る。私はこれを機会に、動物園で出来る手近な教育をと、動物園野外教室を開いている。そこでは、子供たちが持っている野性動物への疑問や知識を教えるために、実際に動物たちを触らせたり、質問会を開いたりしている。こんな時、低学年は決まって「キリンの首はどうして長いのか、象の鼻はなぜ長いのか」といったなぜなぜ論が連発される。しかし、小学生も高学年になると「あの強いゾウの力は何を食べるからなのか。ライオンのあの大きな声はどこから出てくるのか。」といった構造から生理、あるいは生物のすみ分け、食物連鎖といった生態学にまで発展するのである。

私はこれこそ自然の中での教育だと信じている。宮崎はまだまだ自然に恵まれているが、現代の子供たちに、もっともっと、自然の中での教育を体験してもらいたいものである。